

第30回福生市青少年の意見発表大会



第30回

福生市青少年の 意見発表大会

記録集

と き

令和5年11月3日

場 所

福生市民会館 小ホール
(つつじホール)

目 次

主催者挨拶	福生市青少年問題協議会会長 福生市長	加 藤 育 男 … 2
司会者紹介		… 3
意見発表		
1 小さな命と国の未来	福生第三中学校 3年	高 橋 ら ん … 4
2 平和を考える	福生第一中学校 2年	村 上 暁 海 … 6
3 性の多様性	福生第二中学校 2年	浅 見 未 羽 … 8
4 ヘルプマークの効果	都立多摩工科高等学校 1年	阿 相 遥 大 …10
5 食品ロス	都立福生高等学校 2年	中 澤 陽 翔 …12
6 見えない凶器	福生第二中学校 2年	田 邨 栞 悠 …14
7 歩きスマホ	都立多摩工科高等学校 1年	新 垣 大 裕 …16
8 不適切保育	都立福生高等学校 2年	高 橋 恵 …18
9 選挙と日本の未来	福生第三中学校 3年	島 田 航 …20
10 一人の手	福生第一中学校 1年	末 永 史 乃 …22
講評	福生市教育委員会教育部参事	勝 山 朗 …24
来賓挨拶	福生市議会議長	武 藤 政 義 …27
令和5年度福生市善行少年表彰		…29
令和5年度「家庭の日」図画・作文コンクール入選作品		…31

主催者挨拶

福生市青少年問題協議会会長
福生市長 加藤 育男

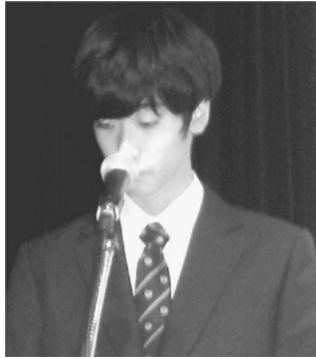
皆さん、こんにちは。第30回という区切りの青少年の意見発表大会、今回もたくさんの方々に御来場いただきました。誠にありがとうございます。そして、いつもどおり、司会は市内中学校の生徒さんに担当していただいております。実は、先ほど少しお話をさせていただいたのですが、高校生がやっつけらっしゃるのかと思うほど、非常に慣れてきているし、上手になってきているので、やはりこういった場を設けることは大切だと思いました。そして、推薦をしていただきました小・中学校、そして高等学校の校長先生方にも前にお座りいただいております。先生方、どうもありがとうございます。

さて、今年から国において「こども家庭庁」が設置されました。そしてそれに伴って、「こども基本法」も施行されましたが、そこには、子どもたちの意見を発表する機会を設ける、そして、社会的活動に子どもたちにも参画してもらおう、それが重要だと銘打たれております。そのような意味で言えば、この青少年の意見発表大会というのは、改めて重要性が増してきていると感じます。ぜひ、今日発表される10名の方には、堂々と、そして自分の信念に基づいて、色々な意見を発表していただければありがたいと思っております。私どももしっかりと真摯に受け止めて、これからの施策に活かしていきたいと考えております。

そして、この後には、善行少年表彰、「家庭の日」図画・作文コンクールの表彰式が行われ、盛りだくさんの内容でございます。ぜひ、最後まで皆さん、子どもたちが今どのような状況でどのように育っているかというのを御覧いただければと思っております。それではよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

司会者紹介



福生市立福生第一中学校 2年 藤田直輝



福生市立福生第三中学校 3年 菊池笑真

※司会を予定していた福生市立福生第二中学校 2年 小林久乃さんは当日、体調不良により欠席となりました。



小さな命と国の未来

福生市立福生第三中学校 3年

高橋 らん

みなさんは15兆と聞いて、何を思い浮かべますか？車の値段？人口？15兆というどんな数に直しても、とても大きい数字ですよ。

では、これが15兆円という金額の話に変わったら、みなさんはどう考えるでしょうか。実はこの15兆円、日本が将来損失するであろうと言われている金額を表しているんです。これは建設費2520億円の新国立競技場が約60個分建てられるということが言えます。何故、このような膨大な額を日本が将来失ってしまうと考えられているのか。これには、子供の貧困が関わっているのです。

厚生労働省によると、日本の子供の約10人に1人が相対的貧困状態に置かれていると言われています。普段は生活に支障がないように見える子供でも、実際はコミュニケーションをとる時間が少なかったり、学習が行えなかったり、十分な食事が食べられないなど、生活に支障をきたしてしているケースがほとんどです。

また、内閣府によると、この相対的貧困状態に置かれている子供の半分がひとり親家庭だそうです。ひとり親家庭の場合、親の所得額が少ない、つまり子供に使える金額が減ってしまう、ということが言えます。そうなると子供の将来の進学が難しくなったり、十分な食事を与えられないなど、子供にも影響が及んでしまいます。また、これは日本の経済にも大きな悪影響を及ぼし、将来15兆円を失ってしまう原因の一つにもなってしまいます。さらに、ひとり親家庭の場合、子供のコミュニケーションをする機会が減ってしまい、コミュニケーション力が育ちにくくなり、子供の将来にも不安が残ってしまいます。実際、自分も母子家庭で、今は私

と私の母、私の母の兄の三人で暮らしています。時々、兄弟が羨ましかったり、父親がどんな人だったのか、母に尋ねることがあります。でも、支えてもらっているおかげで今がある、自分はとても幸せな人間なのだと身に染みるが多々あります。

そこで私は、この貧困状態を解決するには、どうすれば良いのか、考えました。実は現在、様々な企業がこの貧困家庭を救う取り組みを行っています。今回はそのうちの二つについて紹介します。一つ目は、歯磨きで知られるライオン株式会社です。ここでは、貧困家庭で歯磨きの習慣が薄れてしまった子供たちのためにプロジェクトを立ち上げています。二つ目は、家電会社で知られるソニー株式会社です。ここでは、プログラミング体験や異文化疑似体験など、子供の遊び心をくすぐるようなたくさん取り組みが行われています。この二つの企業に共通することは、子供と実際に交流しているということです。自分たちはこの二つの会社のような大きなプロジェクトを立ち上げる必要はありません。ただ、子供と触れ合うことが大切なのです。例として、ボランティア活動が挙げられます。ボランティアをする場所と言えば、やはり子ども食堂ではないでしょうか。ここは、子供が無料で利用でき、食事や団らんを行える場所です。食事を作るだけでなく、団らんして、コミュニケーションをとることで、子供の可能性を広げるきっかけを作ることができます。また、募金活動も一つの例でしょう。みなさんはどう思いますか。あなたが入れたお金が子供たちの将来を変えるきっかけになったら。少しでも子供たちが貧困から救われるとしたら。

始めに述べました、15兆円が失われてしまうという話は事実なのですが、私がみなさんに伝えたいことはお金の話でもなく、何かの数値の話でもありません。ただ、人生がどれだけ大切で儂いものなのかということです。買ったりもできない、人にあげたり貸したりもできない。人に生きると書いて人生。皆同じで違う中、平等に一人の人間として生きる。これが人生なのではないでしょうか。子供の可能性は無限大であり、これからの未来への欠かせない存在だと思います。貧困の問題を少しでも解決、改善できるよう、自分たちにできることを探してみませんか。



平和を考える

福生市立福生第一中学校 2年

村上 暁海

私は、この夏休みに広島に行きました。原爆ドームや平和記念資料館などに行ったことで、私は戦争の恐ろしさや怖さ、辛さなどを痛感しました。私は、以前「はだしのゲン」や「この世界の片隅に」などの戦争を題材にした話を見たり、シモ・ヘイヘという冬戦争で活躍した兵士のことを調べたりしたことがありました。しかし、私は実際に戦争を経験したことがないので、戦争時のことや被爆者たちの悲しさや辛さは分かりません。ただ、戦争は人と人が殺しあうとても恐ろしいことというのは分かります。

現在は、日本で戦争は行われていませんが、ロシアとウクライナでは今もまだ戦争が続いています。ニュースでロシアのウクライナ侵攻の話題をよく目にします。壊された建物や戦っている兵士たちの様子、地元の人々などが取りあげられていました。もし日本もこのような状況になったらと思うと、とても怖くなりました。

もしも、世界に戦争や紛争がなかったら平和になるのかを考えてみました。私は「もしも、世界に戦争や紛争がなかったら平和になる」とは思いません。戦争や紛争がなくなれば、少年兵や食料不足・栄養失調などの問題はなくなると思います。しかし、SDGsの目標や人権問題、核兵器問題など世界中の人がやるべきことが残っています。このように戦争以外の問題をなくさないと平和には近づけないと思います。そして、争いは減らせても0（ゼロ）にはできない、完璧に平和な世界をつくることはできないと思います。しかし、平和に近づけることはできると思います。原爆の恐ろしさを世界に発信し、被爆者たちや戦争の恐ろしさを次世代の人

に伝えていくことが私たちの使命だと思います。世界で唯一原爆を経験した日本だからこそできることだと思います。今を生きる自分のことだけでなく、これからの未来を生きる人々のことを考えて行動したり、困っている国の人々に募金をしたりして人と人との協力をして助け合うことが大事なのではないかと私は思います。



性の多様性

福生市立福生第二中学校 2年

浅見 未羽

私は、東京ディズニーランドが大好きです。

東京ディズニーランドへ行くとまず始めに聞こえてくるのが「Ladies and Gentlemen, Boys and Girls…」でした。そして私は、そのアナウンスを聞くとディズニーランドに来たなという感じがしました。しかしいつの間にかそのアナウンスが変わっていました。母になぜ変わったのかを聞いてみると、「これは女の子、男の子の2つだけに限定しないということだよ。」と言っていました。そこで詳しく調べてみたら「これは性の多様性を尊重したセクシャルマイノリティーへの配慮」と書いてありました。このとき私は初めて、いつもディズニーランドに来たなとわくわくして聞いていたこのアナウンスが、人によっては嫌な気持ちになっていたことを知りました。その人個人個人を認めてあげられる世の中が普通になることが私は一番だと思います。

少し調べてみると子どもにドレスやヘアメイクをし、ディズニープリンセスに変身できるサロンでは、2016年から性別に関係なく利用できたり、従業員の性別などに左右されない身だしなみに切り替えをしていたことが分かりました。また、東京ディズニーランドやシーだけではなくイングランド、ロンドンの地下鉄やバス、「日本航空」などでも女性はスカート、男性はズボンという固定概念をなくした制服があります。福生二中でもそのような固定概念はなく女子でも普通にズボンやスカートを履いています。また、多くのトイレなどでは、男性、女性と分けられていますが、性自認に配慮したオールジェンダートイレが成田空港第一ター

ミナルビル、鳥取大学などに設置されています。成田空港第一ターミナルには、より多くの人々がトイレを使いやすいものにするため、公共のトイレでは左右に男女のトイレがあり、周囲からの視線、違和感を少しでもなくせるよう、オールジェンダートイレは中央に設置されています。また温泉では、トイレと同じように、男性、女性と分かれています。東鳴子温泉では、協力旅館のもと、宿泊者に対するアンケート調査を行い、宿泊者がいつでも・誰でも・何度でも利用できる貸切風呂のプロジェクトを行っていたことが分かりました。「久しぶりに温泉旅行ができた」などの好意的な感想があったそうです。私はこのような温泉やトイレなど男女で分かれている場所が、性の多様性を考え、少しでも多くの場所で分かれていないところができるといいなと思いました。しかし、その中に入る人たちは入るのがいやだな、周囲の視線が気になる、などと思っている人もいるかもしれません。なので、その人たちがいやな思いをしないために、まずは私たちが誰にとっても生きやすい社会、自分にとっても自分と違う人を受け入れ、互いに助け合い、少しでも多くの人が多様性を理解することが大切だと思います。

ヘルプマークの効果

東京都立多摩工科高等学校 1年

阿相 遥大

私は、中学3年生の12月にうつ病になった。その時は心のことだし、ケガや骨折などとの違いはよくわかっていなかった。

みなさんは過呼吸やうつ病、精神疾患などと聞いて何を思うだろうか。過呼吸はなんとなくわかるが、「うつ病？精神疾患？気持ちの問題じゃないの？」と思う人も、少なからずいると思う。私も病名を聞いたときはそう思った。だからこそすぐ治ると思っていた。だが違った。うつ病や精神の病は、その人の気持ちでは、とてもじゃないが完璧に制御できるものではなかった。だからこそ辛いというものもある。周りからも、「お？今日は学校来たんだ。やっばうつ病って気持ちでどうにかできる」と言われ3年生の3学期は、週に1回は休み、半分不登校のようになっていた。人とかかわるのを申し訳なく思ってしまったたり、眠ることができず4時や5時にやっと眠れたり、感情のコントロールが効かなく怒ったりイライラしたり、急に泣いたり、とにかくつらい、その一言だけだ。そんな状態だったが、中学を卒業して高校に入学しても、症状は変わらず、不安定な感情で、オーバードーズをしてしまった。薬を飲んだ後の記憶はあまりなく、咳込み、吐きながら倒れていたそう。その時から過呼吸などを起こすようになった。ここで誤解してほしくないのは、人によって症状が違うということだ。私は過呼吸の症状が大きいだけで全員が同じことに苦しんでいるわけではない。そしてもう一つ、過呼吸はとても怖いということである。当然過呼吸になると呼吸がうまくできず、苦しくなってしまう。だが、それより私が怖いのは、過呼吸がいつどこで起きるかわからないということ

だ。自分ひとりの空間だったら起きても自分だけで処理できるが、外で人がたくさんいるところなどでは、周りの人の邪魔になってしまうのではないかという恐怖が常に付きまとう。

そこで、役に立つのはヘルプマークだ。ヘルプマークは、義足や人工関節を使用している患者、内部障害や難病の患者、または妊娠初期の女性など、援助や配慮を必要としていることが外見では分からない人々が、周りに配慮を必要なことを知らせるため、援助を得やすくするために作成された物で、裏面には自分の症状と対処法を書くことができる。それによって、周りの人が助けるとき、その人の症状に合わせた応急処置ができる。そして、ヘルプマークは、いろいろなところで、無料で条件などなくもらえる。しかし最近ヘルプマークの正規の使い方をしていない人もいる。例えば、ネットに転売する人や、おしゃれのためにつけている人もいるらしい。

私はヘルプマークを使い、転売から起こるモラルの欠如や、おしゃれをする人がなぜ生まれるか考えた。転売は、欲しい人にとってはとても需要があり、電車の優先席に座ることを目的として悪用される可能性もある。おしゃれ目的での利用は、ヘルプマークの本来の目的を考えずにアクセサリ感覚でつけていたいという考えでそういう結果になってしまうのだと思う。

私は、ヘルプマークは今の社会ではまだ差別につながっていると考え。そしてつけている人は、自分の病気や障害を周りにアピールしているみたいで嫌だと考える人も沢山いる。だからこそ、ヘルプマークへの社会的な理解を深め、ヘルプマークを必要とする人がヘルプマークを付けやすくできるような社会になってほしいと考えた。



食品ロス

東京都立福生高等学校 2年

中澤 陽翔

みなさんは学校の給食で年間どのくらい食品ロスが出ていると思いますか。環境省の調査報告によると、学校の給食から発生している食品ロスは一人あたり年間約1.7kgも生じているとのことでした。特に焼却処理をする場合、廃棄物を燃やす時に、有害ガスが発生し、地球環境に悪影響を及ぼします。食品ロスはただ「もったいない」という問題だけではなく、地球にも関係してくるということです。ここでは、なぜ食品ロスが多く出ているのか、その原因と私なりの対策案について話していきたいと思います。

まず、給食における食品ロスで、最も大きな原因が好き嫌いによる食べ残しです。環境省の調査報告では、一人あたり年間1.7kgの食品ロスが生じているとありましたが、その内訳で食べ残しは7.1kgであり、全体の約4割を占めています。皆さんも嫌いな食べ物があると思います。高校生や大人の方々は嫌いな物があつたとしても残さず食べられると思いますが、小学生や中学生は嫌いなものを残してしまうこともあるでしょう。実際に調べてみると、小・中学生の食べ残しをする理由として最も多かったのが「嫌いなものがある」ということでした。そして食べ残しをする生徒を対象にその理由を尋ねた食生活実態調査によると、好き嫌いを理由にした生徒が60%を超えていました。この結果からほぼ3人に2人が給食に嫌いなものが出ると、食べずに捨ててしまっている、そんな現状がわかります。また、小・中学生ともに嫌いな食べ物として上位にあがったのは、野菜や魚介類でした。たしかに思い返してみると、当時、きのこが嫌いだからという理由で残して

しまう子もいましたし、逆にピーマンが大好きな子なんかは少なかった気がします。

もう一つの理由として、調理残渣も給食で食品ロスが生じる大きな原因の一つです。調理残渣とは調理時に出る食材のくずなどのことをいいます。これもまた環境省の調査報告で食べ残しに次ぐ一人あたり年間約5.6kg、全体の約3割を占めていることが明らかになっています。

以上のことから食品ロスの大きな原因となっている「食べ残し」と「調理残渣」を削減していくことが求められます。そのためには、「食べ残し」だったら野菜が嫌いな子も栄養が摂れるように野菜ジュースに変えてみたり、ドレッシングをかけてより美味しく食べられるようにしてみる。「調理残渣」だったらロスが少なくなるように切り方を変えるようにしたりすべきだと思います。

最後に、高校生や大人、誰でもできる対策があります。それは、普段から食事にありがたみをもつことだと思います。もしも残ってしまった時、「もったいない」という気持ちをもっていれば、次は残さないように食べきれる量だけ買ったり作ったりするだろうし、給食の十分な時間をとるなど何かしら工夫するでしょう。こうした対策をすれば、食品ロスの削減につながり、焼却処理時に発生する有毒ガスも減り、最終的に地球温暖化も抑制できると思えました。私はこれからも残り物を増やさないように工夫して食品ロス削減をし、持続可能な社会の実現に貢献していきたいと思います。



見えない凶器

福生市立福生第二中学校 2年

田邨 栞悠

言葉は見えない凶器だ。そう思ったのはニュースで誹謗中傷の事件を目にしたからだ。

今の社会は情報に溢れている。特にインターネットによる情報は、教育・生活など様々な場面で使われていてとても便利なものだ。また、インターネットを通じて個人の考えを簡単に発信することもできるため、社会全体が活性化していると考ええる。一方、ニュースでSNSによる誹謗中傷対策などを話す機会をよく見るようになった。しかし現実には、対策を講じているが減っているように感じない。本当に人権を守ることに繋がっているのだろうか。

誹謗中傷により命を落としたり、心の病で悩んでいるニュースをよくみることで増えた。実際に総務省が出している「インターネット上の誹謗中傷への対応に関する政策パッケージに基づく取組」によると、「総務省が運営を委託している違法・有害情報相談センターで受け付けている相談件数について令和4年度の相談件数（5,745件）は前年より減少したものの、依然高まり傾向にある。また、法務省が相談等を通じて調査救済手続きを開始したインターネット上の人権侵害情報に関する人権侵犯事件は、引き続き高水準で推移している。」と示されている。このことから対策に頼るだけでなく私たち、一人一人がより強い意識を持つことが必要だと考える。

まず発信する側の方は、言葉や発信する情報に責任を持って発信後の状況を事前によく考えることが大切だと思う。次に情報を見る人は、確信のないことや興味

本位で楽しむような拡散やコメントをしないことが大切だと思う。しかしそれらを意識していても傷つくようなコメントを受け取ることがあると思う。だが、その情報全てを信じないことも大切だと思う。つまり、相手と対面で話す時に相手の様子や気持ちを考えて発信したりコメントしたりする。この当たり前にしていることを、メディアを介して相手に気持ちを伝えるときも、より一層相手の気持ちや様子を考えた発言やコメントをしたら誹謗中傷は減ると考える。このことを意識してメディアを使用することが大切だと思う。

それらを踏まえ、言葉には自分が思っている以上に相手に大きな影響を与えるものだと感じた。だからメディアを使うときは相手に自分の気持ちが伝わるよう言葉を選び、メールを送ったり情報を発信したりしようと思う。また普段の生活から相手に嫌な思いをさせないかどうかを事前によく考え、伝えるなどの行動をしていれば、誹謗中傷を書くような行為は少しずつでも減っていくのではないかと思う。一人一人がインターネットの良さを活かした使い方をすれば、言葉の凶器で苦しむ人は減っていくと思う。そのような社会にしていきたい。

歩きスマホ

東京都立多摩工科高等学校 1年

新垣 大裕

皆さん、今日ここに来るまでの過程を思い出してみてください。電車、自転車、徒歩、様々な回答が出ると思いますが、全員に共通する部分があると思います。それは、スマホを使用することです。近年、技術が発展し、日常生活ではスマホが生活必需品になりつつあります。昨年のスマホの所持率は96.3パーセントと、10人に9人が持っていることとなります。電車の時間、道案内、現在の時間を調べるなど、さまざまなことにスマホは使用されています。しかし、スマホは便利である一方で、SNSに関するトラブルなどを引き起こすことがあります。このような様々な問題が起きているなかで、私が一番問題視しているのは、歩きスマホです。今日ここに来るまでに、数人歩きスマホをしている人を見かけました。歩きスマホをしている人たちには共通している部分がありました。それは、画面しか見ていなかったことです。こうなることで起きる問題は二つあると思います。

一つ目はコミュニケーションです。最近、歩きスマホをしながら会話をしている人を多く見かけます。はたして、それは会話が成り立っていると言えるのでしょうか。会話とは、相手のことを見て言葉を交わすことだと思います。だとしたら、スマホを見ながら話すことは、会話とよぶことはできるのでしょうか。私たちは、会話とは何か、何のために存在するのかということを改めて見直すべきだと思います。

二つ目は、交通事故です。令和元年には、年間2,645人が歩きスマホを原因とする事故にあっており、そのうち42人の方が命を失っています。私はこの資料

を読むまでは、事故件数が四桁を超えていると思いませんでした。そして今、歩きスマホは、日本だけの問題ではありません。イタリアでは2人に1人が歩きスマホをしていたり、アメリカの領地であるハワイでは、歩きスマホを禁止する法律ができたりするなど、世界各国で社会問題になっており、対策が練られています。そのなかでも、私が一番気になったのは中国と韓国の取り組みです。中国では、道路を半分に分け、片方の道は歩きスマホを禁止、もう片方の道は、歩きスマホをしても良いという歩きスマホ専用道路ができました。韓国のソウルでは2年前から床にLEDパネルを埋め込み、床に信号をつける床信号が作られました。さらには、見て聞いてというサインが地面に書かれています。

私はこの話を聞いたとき、日本もそろそろ同じような状況になりそうだなと考えました。外に出れば、歩きスマホを必ず見かけますし、自転車や車の運転をしながらスマホを使用している人もいます。このままだと、やはり中国と韓国のような取り組みを行うことになると思います。

歩きスマホには様々な問題がありますが、この問題は一人で解決することはできません。スマホを使用する人、所持する人が意識を変えれば解決はしません。意識の変え方は、様々あります。ハワイで行われた歩きスマホ禁止令も意識の変え方の一つです。しかし、この考え方はあまりよくないと私は思います。人の考えを無理やり変えたような印象を受けるからです。日常にある些細なきっかけでもいいから少しずつ意識を変えていくことが大切だと思います。私は、ある日、歩きスマホをするとどんなリスクがあるのだろうかと考えた結果、リスクとリターンが見合っておらず、やる意味がないと思い、歩きスマホをしないように意識しています。

今の時代、いろいろなことが便利になりました。便利になっていくからこそ使い方を意識しなければなりません。一人一人が使い方の意識を考えたとき、歩きスマホの問題は解決に近づくと私は思います。

不適切保育

東京都立福生高等学校 2年

高橋 恵

度々ニュースに上がる不適切保育というものを聞いたことがありますか。不適切保育は子どもに必要以上の罰を与える、置き去り、閉じ込めなどの行き過ぎた指導などで子どもに傷を負わせることです。

実際にこども家庭庁が調査を行った結果、昨年4月から12月に、全国の認可保育所で914件不適切保育があったと報告されました。最近でも茨城県水戸市の認可保育所で一歳児を担当する保育士が、園児の口に食べ物を押し込む行為や静岡県裾野市の認可保育所で保育士が園児の足をつかんで宙づりにするなどの虐待をしたというような不適切保育が発覚しています。この例のように不適切保育は、場合によっては虐待にあたる可能性があり、子どもの成長の場であってはならないことなのです。虐待にも種類があり、身体的虐待、心理的虐待、トイレの世話をしないや給食を与えないというネグレクト、性的虐待など様々です。

不適切保育、虐待を生む背景には一番に人手不足という点があげられます。1歳児の場合、日本の保育士1人あたりに子どもは6人。イギリスやドイツの倍の数なのです。保育士の方のお話によると、一人一人に寄り添った保育は非常に難しく、予想外の行動をする子ども達から目が離せない。ストレスから心も体もへトへト、と。保育のニーズが高まる中、人員が限られている現場ではゆとりのある保育ができていないというのが現状なのです。なぜこんなにも人手が足りず、余裕をもって保育ができていないのでしょうか。それは全産業と比較した時に給与が低くみえてしまうこと、支給額に対する業務量が多いこと、など待遇に関することがあげられ

ます。保育士の仕事は子ども達と遊ぶだけではありません。保育計画書の作成、連絡帳の記入、帰宅後や休日にはピアノ練習やイベントの準備、保護者との人間関係、目を離せない子どもたち。こう考えれば、その場で働いていない私たちから見ると保育現場の人手不足が慢性的に起こっているのは当然とってしまってもおかしくありません。

不適切保育や虐待は絶対に起こってはならないことです。人格が形成されるような本当に大切な時期にそのような事が起きて許されるものではないのです。ですが、不適切保育は訳もなく起こるのではなく、先ほど述べたような明確な理由があるのです。その時その時で処罰や対処をし、対策をすることも大切ですが、保育の現場をもっと改善し、仕事のしやすい環境づくりをしなければ不適切保育というものは無くならないと、私は思います。人が育つ場所だからこそ、改善に向けての行動を国で起こすことが必要であると考えます。



選挙と日本の未来

福生市立福生第三中学校 3年

島田 航

みなさん、選挙に行っていますか。また、この話を聞いている方の中にはお子さんがいらっしゃる方も多いでしょう。皆さんのお子さんは選挙に行っていますか。行っていない人が少なくないのではないのでしょうか。実際、僕の兄も基本的に選挙に行っていません。また、昔母に連れられ選挙の会場に行った時、若い人がそこまで多くなかった記憶があります。

昨今、選挙のたびにニュースでは若者の投票率が低いことを嘆かれています。実際に日本生命が発表しているデータによると、平成2年から平成26年にかけて若者の投票率が約20パーセント下がっていることがわかります。

これは、選挙に行かないことによって、どのようなデメリットがあるのかを知らず「選挙なんて」と軽く考えていることが原因だと思います。実際に、18歳から20歳の有権者に行った総務省の調査では、投票に行かなかった理由として「今いる市町村で投票できない」に次いで、「選挙にあまり関心がない」が2番目に高くなっています。僕は、選挙に行かないことによるデメリットについてお話ししたいと思います。

みなさんは投票率が下がるとどのような不利益があるのかわかりますか。

そのうちの一つが組織票です。投票率が少ないということはその分、組織票が優位になります。そのため、特定の団体が自分たちの息のかかった政党を国会に進出させ、不当に利益を得るかも知れません。このようなことを許して良いのでしょうか。確かに、これは極端な例と言えるでしょう。しかし、このようなことが、実際

に投票率が低いことで起こりうるのです。

また、東北大学の吉田浩教授の試算によると、49歳以下つまり、若者世代の投票率が1パーセント下がるにつき、若者世代は年間7万8千円の負担増加につながるのだそうです。もう一度言いましょう。7万8千円です。あなたはこの7万8千円で何ができるでしょうか。大体、僕の持っている文庫本が6百円前後ですので、約130冊買うことができます。3年間で23万4千円ですから、最新の 아이폰にも手が届く金額です。これは、家計にも大きな、大きな打撃となることでしょう。みなさんが選挙に行くことで、これだけのお金が失われずに済むのです。

投票に行かない理由として、「自分が行ったところで」や「どうせ何も変わらない」という意見が多くみられます。しかし、そのように自分の権利を放棄して投票に行かなかった場合、日本が行き着く結末はとても悲惨なものになり、我々の若者世代の負担は増える一方です。

投票理由も「良い歳して投票方法がわからないというのも恥ずかしい」や、「話のネタ作り」そのくらいの軽い気持ちで十分ではないでしょうか。そのくらいの軽い気持ちで選挙に行って日本を救ってほしいと思います。

成人年齢の引き下げに伴って、我々中学生もあと数年で選挙権を得ます。ここにいる若い皆さん、お子さんがいらっしゃる皆さん。若者が投票に行く機運をぜひ高めてほしいと思います。日本の未来を良くするため、自分が将来損しないため、分からなければ白紙でも良いでしょう。ぜひ選挙に行ってください。



一人の手

福生市立福生第一中学校 1年

末永 史乃

私は昨年、祖母と一緒に「荒野に希望の灯をともし」という映画を見ました。これは、アフガニスタンやパキスタンで渇水に苦しむ住民のために、生涯をかけて水路をつくった医師、中村哲さんの物語です。

日本で精神科の医師として働いていた中村さんは、パキスタンやアフガニスタンで働くことになりました。当初の任期は3年で、急な山岳地帯の集落の人々を診療する危険な仕事でした。普通ならためらうところを、虫や山が好きだった中村さんは任務を引き受けます。

中村医師が赴任したアフガニスタンは、乾燥した気候ですが、もともと実りの多い農業国でした。しかし、長引く戦乱に加え、2000年には歴史的な大干ばつが発生してしまいました。その時には100万人以上が飢餓に直面し、難民が増えました。

中村さんが働く診療所には、栄養失調や不衛生な水のため赤痢などに感染した子どもや高齢者が殺到し、次々と命を落としました。中村さんは、この状況を解決するためには根本的な衛生状況の改善が必要だと考え、清潔な水と農業用水のための用水路の建設を決意しました。

中村さんはアフガニスタンやパキスタンで現地の人々と協力し、中村さんの故郷である福岡市の面積の約4割に当たる土地を潤し、枯れた農地や砂漠を緑の大地によみがえらせました。そのおかげで、国外などに逃れていた難民を含め約60万人が故郷に戻り、新たな耕作地を得ることができました。

この映画で私が最も印象に残ったのは、「彼らは殺すために空を飛び、我々は生きるために地面を掘る」という中村さんの言葉です。この言葉の「彼ら」というのは、戦争をしてたくさん罪もない人々を殺している人のことです。反対に中村さんや用水路をつくった人々は、枯れた土地をよみがえらせるため、病気で苦しんでいる人を救うために、武器ではなく、シャベルを持って地面を掘りました。戦争をして、人を殺している人がいる中、食べものも住む場所もない人のために一生懸命働いている人がいることを知り、私はそれがとても尊いことだと感じました。

中村さんが行ったことは、他の人の人権を守る行為です。人権というのは人が生きる権利であり、命を奪う戦争は、生きる権利を奪う一番の人権侵害だと思います。今も世界各地で戦乱が起き、私より小さな子供の命も奪われています。私は、命を傷つける行為を、世界からなくさなくてはいけないと思います。平和は願うものではなく、自分たちの手で作っていかなくてはいけないものです。少しでも争いを減らすために、まず、人権についてもっと詳しく知らなければならないと思います。そして中村さんのように、周りをよく見て、困っている人をたくさん助け、いつかまだ見ぬ世界のたくさんの人々の人権を守れるような人になりたいです。

ただ今、御紹介いただきました、福生市教育委員会教育部参事の勝山でございます。

30回目を迎える福生市青少年問題協議会主催「福生市青少年の意見発表大会」に、今年も参加をさせていただきました。中学校、高等学校10名の生徒の皆さんによる熱い思いのこもった発表を伺い、私自身の心はもとより、この会場にお集まりの皆さんが、心地よい空気に包まれていることと思います。コロナウイルス感染症やインフルエンザの流行もございましたが、まずは、この発表会が無事に開かれたことを大変うれしく思っています。

さて、10名の生徒の皆さんの発表を拝聴し、改めて、様々なことを考えさせられました。私は、福生市青少年の意見発表大会の中学生、高校生の意見を伺うのが3回目となりますが、毎年、生徒の皆さんが、新たな社会問題や旬な話題に着目し、真摯に向き合い、中学生、高校生だからこそ持ち得る感性から素直に表現されている内容で、大変胸が熱くなる思いです。

そして、同時に、福生市に深い縁のある「ふっさっ子」に、頼もしさと強い期待を抱く時間となりました。特に、都立福生高等学校、都立多摩工科高等学校の皆さんが、今年も参加していただき、都立学校でありながら、ふっさっ子の一員として、誇り高く発表いただいたこと、誠にうれしく思います。加藤育男福生市長をはじめ福生市役所の皆様、武藤政義福生市議会議長をはじめ市議会議員の皆様、青少年問題協議会の皆様、福生市教育委員の先生方、各校の校長先生方等、多くの大人の心に、メッセージが届いたことと思います。発表者の皆さん、ありがとうございました。

さらに、このような会を企画し、長年継続、実施されてこられた加藤育男会長を始めとする福生市青少年問題協議会の皆様に改めて敬意を表すものでございます。

それでは、私は、この会の講評の大役を仰せつかりましたので、お一人一人の御発表について、一言ずつではございますが、感想を述べさせていただきます。

1 福生第三中学校 3年 高橋 らん さん

「小さな命と国の未来」

「自分はこんな大人になって、誰かのために役に立ちたい。」家庭の収入の状況に関わらず、子どもたちは、誰もがそのような志をもち、その志に向かって努力する権利を有しています。学校教育は、一人一人の子供が思い描く志の実現に向け、一歩でも近付けるようサポートできる場所だと、私は信じています。今、福生市の学校でも、企業とのタイアップができないか、いろいろと考えているところですが、そのような企業の社会貢献事業を把握している高橋さんは、社会にきちんと目を向けている素晴らしい生徒だと思いました。目先のことにとらわれることなく、社会全体を考えている意見に、心を打たれました。

2 福生第一中学校 2年 村上 暁海 さん

「平和を考える」

今、戦争が起こっている地域のことを、他人事ではなく、もし、日本だったらと身近な問題に置き換えて考えていることから、村上さんが、日々、グローバルな視点で生活を送っていることが分かります。日本は、戦後78年、戦争を知らない人々の方が多くなった現在、村上さんのように、夏休みに広島へ行き、唯一の被爆国としての見識を深めるような若者こそ、今後の日本の平和、世界の平和に寄与する人材なのだと、改めて感じています。「これからの未来を生きる人々のことを考えて行動する」という主張のとおり、未来へのつながりを意識し、平和な社会の実現に向け、村上さんが力を発揮してくれることを期待しています。

3 福生第二中学校 2年 浅見 未羽 さん

「性の多様性」

「わくわく聞いていたこのアナウンスが人によっては嫌な気持ちになっていたことを知りました。」同じ説明を受けても、浅見さんと同じように気付くことができる人は、そう多くないと思います。自分と考え方や感じ方が似ている人はいても、全く同じ人はいないと思います。違って当たり前と考え方や感じ方を、お互いに理解することの大切さ、そして難しさを、意見発表から強く感じました。トイレは、区別されているから入りにくい人もいれば、区別されていないから入りにくい人もいるでしょう。多様性を認める社会とはどのようなことなのか、具体的な場面を想定しながら、ぜひ、学校の仲間と話し合っしてほしいと思います。

4 都立多摩工科高等学校 1年 阿相 遥大 さん

「ヘルプマークの効果」

病気や障害に限らず、自分自身の辛さを理解してもらえないことは、とても辛いことです。阿相さんは、その辛い思いを、はっきりとした言葉で伝えてくれました。自身の辛い部分を話す勇気と、同じような思いをしている人をこれ以上増やしたくないという優しさが、発表からあふれていました。「ヘルプマークを必要とする人がヘルプマークを付けやすくできるような社会」。それはきっと、ヘルプマークを付けている人に対して、ここにいる全ての人が、自分事として積極的に声掛けする社会だと、私は思います。一人の大人として、社会の一員として、何ができるか、何をすべきか、考えさせられる素晴らしい意見発表でした。

5 都立福生高等学校 2年 中澤 陽翔 さん

「食品ロス」

戦争の時代を生きた方々からは、食べるものがなく、「生きるために、木の根を兄弟で分けて食べた。」「多くの弟や妹に食べ物を与えるため、自分は水を飲んでしのいだ。」このような話を聞いたことがあります。今を生きる子供たちは、食べられることに対して、どのくらい「ありがたい」と感じているのでしょうか。そのようなことを改めて考えさせられました。そして、問題提起だけではなく、課題解決の方法を合わせて考えるところが、さすが高校生だと感心いたしました。子どもは、大人を見て育ちます。未来を担う子供たちのために、大人がすべきことは何か、大人の心に届き、それぞれに考えてもらいたいメッセージでした。

6 福生第二中学校 2年 田邨 栞悠 さん

「見えない凶器」

デジタル社会の進化は日進月歩で、インターネットは、今や生活の中で欠かすことのできないものとなりました。その一方で、SNS等を悪用した犯罪や個人に対する誹謗中傷等、許しがたい事件や事故が連日報道されています。責任ある情報発信、拡散、コメント、そして、流れている情報が正しいのか見極めること。意見発表にあった「一人一人がより強い意識を持つこと」は、本当に大切です。この意見発表が、田邨さんのように、相手のこと、周りのことを考えて生活できる人が一人でも増えるきっかけとなり、温かい言葉のキャッチボールが繰り返される社会が実現することを願ってやみません。

7 都立多摩工科高等学校 1年 新垣 大裕 さん

「歩きスマホ」

スマートフォンを見ている人の姿は、まさに日常となりました。電車の中でも、周りに誰がいるのか、景色がどのように移り変わるのかには一切興味をもたず、画面だけを見続けている人であふれています。歩きスマホの危険性を指摘し、その解決の手だてを取るべきだという新垣さんの主張の素晴らしいところ。それは、ルールを作って制限すればよい、という単純な方法にとどまてはいけないというメッセージが込められている点です。切り口は歩きスマホについてですが、私たち一人一人が、社会の一員としてどうあるべきなのか、また、それはなぜなのかについて、常に考えていくことの大切さを強く感じました。

8 都立福生高等学校 2年 高橋 恵 さん

「不適切保育」

「不適切保育」という表題から、保育士による虐待等を追求するのだと推測しましたが、良い意味で裏切られました。人格が形成される本当に大切な時期、虐待は決して許されるものではありません。そのことを指摘しつつ、その背景にある労働環境を改善しなければ、根本が解決されないという主張は、適格だと感心いたしました。この問題は、日本で今もなお、急速に進行している少子化の問題と直結しています。働きながら安心して子育てできる社会を築いていくために、欠かすことのできない視点だと考えます。主張を実現するために自分は何ができるか。高橋さんが国を動かす一人として活躍されることを期待しています。

9 福生第三中学校 3年 島田 航 さん

「選挙と日本の未来」

「選挙にあまり関心がない」ということは、「自分たちの生活をよりよくすることに関心がない」と同義であると思います。まさに、表題の「日本の未来」が非常に危機的状況であると捉えることができます。そのような中、今、選挙権をもっていない中学生が、様々なデータを基に、選挙に行くことの意義について明確に述べていることに感動いたしました。島田さんの主張を聞いて、私が、選挙の投票所で聞いた若者の会話を思い出しました。「選挙で投票する権利を行使しなければ、大人としての責任の放棄だよな。」本日のこの意見文に込められた、未来を担う青少年の思いを、全ての大人の心に届けたい。強く願ってやみません。

10 福生第一中学校 1年 末永 史乃 さん

「一人の手」

映画の作品から自分自身が感じ、考えたことを意見発表のテーマとして選んだということは、この作品のメッセージ性が強いだけでなく、発表者自身が、美しい心と人を大切にできる感性をもっているからこそだと思います。また、意見発表の中にあつた言葉、「私は、命を傷つける行為を、世界からなくさなくてはいけないと思います。」周りの人を大切にできる人は、自分の大切さを理解している人だと思います。末永さんを大切にしている家族の姿が思い浮かびました。志の実現は、まず、自分で強く願うことから始まります。きっと、世界を舞台に、多くの人々の人権を守る立場で活躍されることでしょう。期待しています。

以上、雑駁ではございますが、10名の生徒による意見発表への講評とさせていただきます。本日、意見発表をしてくださった生徒の皆さんの考えがきっかけとなり、中学生、高校生の皆さんが、熱い議論を交わしてくれることを、さらには、家庭や地域に、その議論が広がっていくことを心待ちにしています。

結びに、本日発表をしてくださった生徒の保護者の方々、日頃より生徒の御指導に当たられている3校の中学校の先生方、都立福生高等学校、都立多摩工科高等学校の先生方、本会の事務局を担当された福生市子ども政策課の皆様に感謝申し上げます。

来賓挨拶

福生市議会議長
武藤 政義

御紹介いただきました福生市議会議長の武藤政義でございます。第30回福生市青少年の意見発表大会の開催、誠におめでとうございます。そしてお疲れさまでございました。市議会を代表いたしまして、一言御挨拶を申し上げます。

今日、この会場に入ってきて、司会の方から御紹介があったように一列目に福生市内小学校7校、中学校3校、高等学校2校の各学校の校長先生がずらっと並んでいらっしゃるのを見て、ここで意見発表をするのは大変だろうな、と思いました。ですが、発表を聞かせていただいて、皆さん本当にしっかりと自分の意見を分かりやすく伝えていて、本当に素晴らしいな、と感じました。

占い師の方が良く使うのですが、「あなたのお父さんは死んでいませんね」と質問すると、「まだ死んでいない」と死んで「いない」と正反対の二つの意味となり、どちらを聞いても正解になるという、こんな話を聞いたことがあります。つまりは、そういった分かりにくい言葉がありますが、発表者の皆さんはそうした言葉を少しでも排除するよう、何回も原稿を書き直して、何回も読んで、一生懸命練習して、今日のこの日を迎えられるのではないかと思います。今日のことを糧にして、これからの学校生活、また社会生活で大いに活躍してくださることを祈念して、挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

令和5年度 福生市青少年の意見発表大会 実施要綱

主 催

福生市青少年問題協議会

趣 旨

中学・高校生に日常生活を通じて考えていることや体験などを自由に発表させることにより、自立心、創造性、社会性を育てる機会とするとともに、広く一般市民が中学・高校生の意識や行動に対する理解を深め、青少年健全育成の充実に資することを目的とする。

応募資格

市内在住・在学の中学生、高校生（国・公・私立を問わない）

主 題

自由（学校、家庭、地域のかかわりの中で日頃考えていることや体験などを中心に、自由課題とする。）

応募方法

- 1 発表する内容を400字詰原稿用紙に縦書きで、3～4枚程度にまとめる。（手書きの場合は、濃くはっきりとした文字で、原本を提出）
- 2 原稿のはじめに、題名、学校名、学年組、氏名、住所を記入する。
なお、ここで得た個人情報は、大会以外の目的には使用しない。

応募締切、提出先

令和5年9月8日（金）までに福生市役所子ども政策課子ども政策係へ提出（必着）

発表者の選出及び発表方法

応募者が多い場合は、必要に応じて主催者が原稿審査のうえ発表者を十名程度選出する。

記念品の贈呈

応募者全員に参加賞を贈呈するほか、発表者には賞状並びに記念品を贈呈する。

広報等

- 1 市内各中学校・高等学校に依頼し、周知を図る。
- 2 市広報、ホームページへの情報掲載
- 3 市内各所へのポスター掲示、チラシ配布等

発表大会

- 1 日 時 **令和5年11月3日（金）午後2時から**
- 2 場 所 福生市民会館小ホール
- 3 発 表 者 主催者が選出した者
- 4 発表の方法 応募した原稿に基づき、本人が5分程度で発表する。
- 5 リハーサル 令和5年10月24日午後4時から（予定）

その他

市広報、ホームページ等により、発表者の氏名、写真等の情報を掲載するとともに、記録集の作成・配布、大会の動画配信を行います。また、多摩ケーブルネットワーク等で放送される場合がございます。

問合せ

福生市役所 子ども家庭部 子ども政策課 子ども政策係
電 話 042-551-1733（直通） F A X 042-551-2133

令和5年度 福生市善行少年表彰

福生第一小学校	櫻	理子	あいさつ運動やユニセフ活動並びにエコキャップ回収運動を通して学校生活の充実を図り地域社会へ貢献した。
福生第二小学校	石澤	陽向	踏切で閉じ込められた高齢者に対し遮断機を持ち上げて脱出を促すなどの救助活動を行った。
福生第三小学校	秋山	鷹太	代表委員会委員長として学校全体や学級のためになる活動に積極的に取り組んだ。
福生第四小学校	松田	空真	学校生活への適応に困難さを抱えている友人に対し友人宅への立ち寄りや勉強の付き添いなど思いやりのある行動をした。
福生第五小学校	佐藤	柊汰	野鳥観察会において中心的な役割を担い自然や動物への愛護の意識が大変顕著である。
福生第五小学校	大橋	陽向	野鳥観察会において中心的な役割を担い自然や動物への愛護の意識が大変顕著である。
福生第五小学校	菌田	恭之介	野鳥観察会において中心的な役割を担い自然や動物への愛護の意識が大変顕著である。
福生第五小学校	河野	修也	野鳥観察会において中心的な役割を担い自然や動物への愛護の意識が大変顕著である。
福生第五小学校	坂本	和奏	野鳥観察会において中心的な役割を担い自然や動物への愛護の意識が大変顕著である。
福生第六小学校	小山	蘭	委員会活動への積極的な取り組みや学校行事での中心的な役割を担うことを通して全校児童の学校生活の充実を図った。
福生第六小学校	小山	凜	児童会活動での全校児童の模範者としてどの学習に対しても主体的に学び全力で取り組んだ。
福生第七小学校	村野	翠音	地域のボランティア活動であるごみ拾いなどに継続して参加し環境美化に努めた。
福生第七小学校	堀口	要	地域のボランティア活動であるごみ拾いなどに継続して参加し環境美化に努めた。
福生第一中学校	児島	舞	福生市教育委員会主催の「いじめ防止サミット」への参加などを通していじめ防止活動に真摯に取り組んだ。
福生第二中学校	小林	陽	福生市教育委員会主催の「いじめ防止サミット」への参加などを通していじめ防止活動に真摯に取り組んだ。
福生第二中学校	岡野	凜	登校途中に道に迷っていた高齢者に対し付き添いながら目的地まで案内をした。
福生第二中学校	和田	隆士朗	登校途中に道に迷っていた高齢者に対し付き添いながら目的地まで案内をした。
福生第二中学校	須崎	海斗	登校途中に道に迷っていた高齢者に対し付き添いながら目的地まで案内をした。
福生第三中学校	桐野	耀貴樂	福生市教育委員会主催の「いじめ防止サミット」への参加などを通していじめ防止活動に真摯に取り組んだ。
都立福生高等学校	生徒会		福生市主催のワークショップに参加し公共施設の未来のサービスについて考え自らの意見を発表した。
都立福生高等学校	熊坂	羽音香	福生市主催のワークショップに参加し公共施設の未来のサービスについて考え自らの意見を発表した。
都立福生高等学校	山本	彩夏	福生市主催のワークショップに参加し公共施設の未来のサービスについて考え自らの意見を発表した。
都立福生高等学校	若林	沙姫	福生市教育委員会主催の「いじめ防止サミット」への参加などを通していじめ防止活動に真摯に取り組んだ。
都立福生高等学校	高山	夏妃	福生市教育委員会主催の「いじめ防止サミット」への参加などを通していじめ防止活動に真摯に取り組んだ。
都立多摩工科高等学校	齋藤	颯月	福生市教育委員会主催の「いじめ防止サミット」にファシリテーターとして参加しいじめ防止活動に真摯に取り組んだ。
都立多摩工科高等学校	野和田	倭杜	福生市教育委員会主催の「いじめ防止サミット」にファシリテーターとして参加しいじめ防止活動に真摯に取り組んだ。

令和5年度 福生市善行少年表彰実施要綱

第1条 趣旨

少年でその行為が他の模範となると認められるものを表彰し、広く少年の公德心の高揚と、より良き社会環境を作り、少年の健全な育成を図ることを目的とする。

第2条 表彰主体

福生市青少年問題協議会

第3条 対象

福生市に居住する少年又は、市内に通学若しくは通勤している少年で、令和5年4月1日現在18歳未満の者とする。

第4条 表彰の方法

- 1 表彰は、個人、団体（主に18歳未満で構成されたもの）及び協力行為表彰（個人ごとに表彰）とする。
- 2 表彰は、原則として継続的に行為とする。
- 3 表彰は、賞状と記念品を贈呈する。

第5条 表彰時期

年一回とし、推薦により表彰する。ただし、必要に応じ随時表彰することができる。

第6条 被表彰の決定

別紙様式による表彰候補者を審査委員会にて選考し、青少年問題協議会長（以下「会長」という。）が決定する。

第7条 審査委員会

審査委員会は、青少年問題協議会委員のうちから会長が選任する若干の委員をもって構成する。

第8条 推薦者

推薦者は、関係機関、各団体、事業所等の代表者とし、機関決定のうえ、推薦書をもって推薦する。

第9条 推薦内容

- 1 公共生活への貢献 ……公共物の愛護、公衆道徳の普及実践、公共利益となる工夫その他公共団体、地域、学校、職場に尽くした行為。
- 2 事故防止 ……交通事故、水難防止、その他の事故防止に尽くした行為。
- 3 環境美化 ……清掃美化、ゴミ減量運動等に協力、その他環境美化、環境衛生に尽くした行為。
- 4 隣人愛 ……隣人や友人など身近な人とのふれあいや仲間作りに対して、思いやりの心を持って中心的役割を担う行為。
- 5 個人生活の徳行 ……個人生活で特に他の模範となる行為。
- 6 防犯 ……犯人逮捕を容易ならしめるための協力で特に顕著な者、その他防犯に尽くした行為。
- 7 防火 ……火災の通報（早期発見）、消火を容易ならしめるための行為で顕著な者、その他防火に尽くした行為。
- 8 人命救助 ……人命の救助、救急、看護など特に顕著な者。
- 9 社会福祉 ……社会福祉施設又は、不遇な人たちへの慰問、激励、各種奉仕、金品の寄付その他社会福祉に尽くした行為。
- 10 その他 ……その他特に善行と認められる行為。

第10条 表彰審査において考慮すべき事項

- 1 青少年が自主的、積極的な意思によって行われたものを尊重する。
- 2 一時的な行為より継続的に長期にわたる行為、負担度や苦労度の多い行為を尊重する。
- 3 同一行為が、他の団体から表彰されたもの並びに当市で表彰されたものであっても、概ね3年を経過したものについては、表彰の対象とする。

第11条 表彰候補者の推薦依頼先

福生市青少年問題協議会委員、福生市内小・中・高等学校長、福生市内小・中PTA会長、福生市青少年育成地区委員長、町会長・自治会長、民生・児童委員、社会福祉協議会、警察署長、消防署長、保護司、防犯協会長

令和5年度「家庭の日」図画・作文コンクール入選作品

図画の部

【一席】福生第五小学校 竹田 結

【二席】福生第四小学校 田村 梨名、 福生第五小学校 北島 心渚

【佳作】20点

作文の部

【一席】福生第二中学校 馬越 琉歌

【二席】福生第五小学校 服部 蘭

【佳作】3点



図画の部【一席】 竹田 結さんの作品



図画の部【二席】 田村 梨名さんの作品



図画の部【二席】 北島 心渚さんの作品

作文の部【二席】 服部 蘭さんの作品

大好きなおばあちゃん	六年一組	服部	蘭
私はこの前「西の魔女が死んだ」という本	を読みました。その物語に出てくるおばあ	ちゃん	は孫とケンカして、仲直りできないまま
死んでしまいました。そのおばあちゃん	と自分のおばあちゃん	が似ていて、ずっと二人を	重ねるようにして読んでいました。
私がおばあちゃんの家に行くとおじい	ちゃんとおばあちゃん	が迎えにくれる。私が小さ	いころからこれが当たり前のことだ、たけれ
ど、この本を読んで、一緒にいられる時間	は限られていくというこ	とに気付きました。お	じいちゃんおばあちゃん
は八十才なので、一緒に	過ごされる時間はあと十年	ぐらいでしょう。か	。これからは恥ずかし
がさすに、さして今	度でいいやと思わずに感謝	の気持ちも伝える	ようにしたいと思
います。おばあちゃん	の家は山が近いので、庭	に出るとひぐらしの	声に包まれます。おばあ

ん	の家にお泊まりした日、ちやうど習い事	で	いやなことがあって私の気持ちはどんより
して	いました。おばあちゃん	とスイカを食べ	て、夕ネを飛ばしたり、一緒に料理
を	したり、布団をしいたりして	いると心がスッと軽くな	って、いせなことが忘れ
られ	ました。おばあちゃん	は一番悩みを話しやす	い人です。もしいな
くな	ってしまったりと考えると悲	しいし、こわい	です。もって話してお
けば	よかったです。後悔	すると思	います。ひぐらしの
声	が聞こえたら泣き出し	てしまうと思	います。でもこんな
風	に大事な人がいることは幸	せだと思います。こ	れが幸せなんだと思
い	ました。そして今この	時間をしっかりと	味わいた

令和5年度「家庭の日」図画・作文 募集要綱

- 目 的 「家庭の日」の図画・作文を市内小・中学生から募集し、「家庭の日」に対する関心を高める。また、優秀作品については、市内公共施設に掲示するとともに広報等に発表し、家庭の大切さを訴える。
- 対 象 者 市内の小・中学生
- 応募方法 締切り日までに、持参又は郵送により応募。題名、学校名、学年組、氏名を明記する。なお、ここで得た個人情報、この要綱に基づく目的以外には使用しない。
※学校をとおしての応募の場合は、提出者全員の名簿を添付すること。
- 応募締切 令和5年9月8日（金）
- 応募先 福生市役所 子ども家庭部 子ども政策課 子ども政策係
住所 福生市本町5番地
- 題 材 「家庭の日」又は家庭にちなんだ図画・作文
※（例）私の家族、私のお父さん、私のお母さん、家族での思い出（家族旅行・スポーツ・料理や掃除のお手伝いなど）
図画の大きさは、B2判からB5判まで。
作文は800字以内とする。
「家庭の日」啓発事業であるため、図画にはできる限り「家庭の日」の文字を入れる。
- 賞 図画は、小・中学生から1席1点、2席2点、佳作数点とする。
作文は、小・中学生から1席1点、2席1点、佳作数点とする。
ただし該当作品がない場合はこの限りではない。
応募者全員に参加賞を送る。
- 展 示 令和5年12月23日（土）～令和6年1月19日（金）の期間、市役所1階北側玄関付近に、入選作品（図画・作文）を展示する。
- そ の 他 1席、2席、佳作、参加賞の賞品は、原則として学用品とする。
市広報、ホームページ等により、入選者の氏名等の情報を掲載する。
- 問 合 せ 福生市役所 子ども家庭部 子ども政策課 子ども政策係
電話 042-551-1733

善行少年表彰 被表彰者



「家庭の日」図画・作文コンクール 一席・二席入選者



第 30 回 福生市青少年の意見発表大会記録集

令和 6 年 1 月

発 行：福生市青少年問題協議会

編 集：福生市 子ども家庭部 子ども政策課

〒197-8501 福生市本町 5 番地

電話 042-551-1733

F A X 042-551-2133

